

【JACDS事務連絡No.19178】
2020年(令和2年)3月19日

日本チェーンドラッグストア協会
正会員企業様 各位

日本チェーンドラッグストア協会 事務局

新型コロナウイルスに関する情報提供 (イブプロフェンの販売時の対応について)

会員企業におかれましては、協会活動に御理解と御協力を賜り感謝申し上げます。

さて、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、様々な情報が飛び交う中、複数のメディアから「フランスのオリビエ・ベラン保健大臣が、新型コロナウイルス感染者がイブプロフェンなど抗炎症薬を服用すると感染を悪化させる要因になる可能性がある」とツイッターで指摘したことが報じられました。また、これを受け、一部の会員企業からは、その真偽を含め追加情報に関する問い合わせがありました。

協会として、独自の情報は何ら持ち合わせていませんが、本日(3月19日)付けの薬事時報社「PHARMACY NEWSBREAK」1619号において厚生労働省の国会答弁(18日参議院厚生労働委員会。答弁者 山本 史・大臣官房審議官(医薬担当))が報道されていますので、参考までにお知らせいたします(添付することは禁止されていますので、ご了解ください)。

これによれば「ドラッグストアや薬局で購入する際は、薬剤師や登録販売者とよく相談するように求めるとともに、「医療用については添付文書の記載内容なども踏まえて、患者の症状の重さに応じて、医師に適切に判断いただきたい」と述べた」旨が記されています。

また、「加藤勝信厚生労働大臣は、「フランス当局に対して、政府としての見解と根拠などを今問い合わせている」と説明した」旨も記されています。

なお、厚生労働省にも問合せましたが、「現時点でこれ以上申し上げることはない」とのことでした。

協会としては、引き続き関心を持って、厚生労働省等からの情報収集に努め、迅速にお知らせいたします。